

大阪私立中学校・高等学校図書館研究会 夏季研修会

教科横断型授業の実践と学校図書館の役割



奈良育英中学校・高等学校

司書教諭 言語技術科 細川 恵利

発表の流れ

1. 本校の概要
2. 「言語技術」の授業について
3. そこから見えてきたこと
4. まとめ

奈良育英中学高等学校 学校図書館案内図

400m²



フロッジェクターと視聴覚機器を設置しています。PCを使ったプレゼンをする場合は、事前に説明を受けてください。

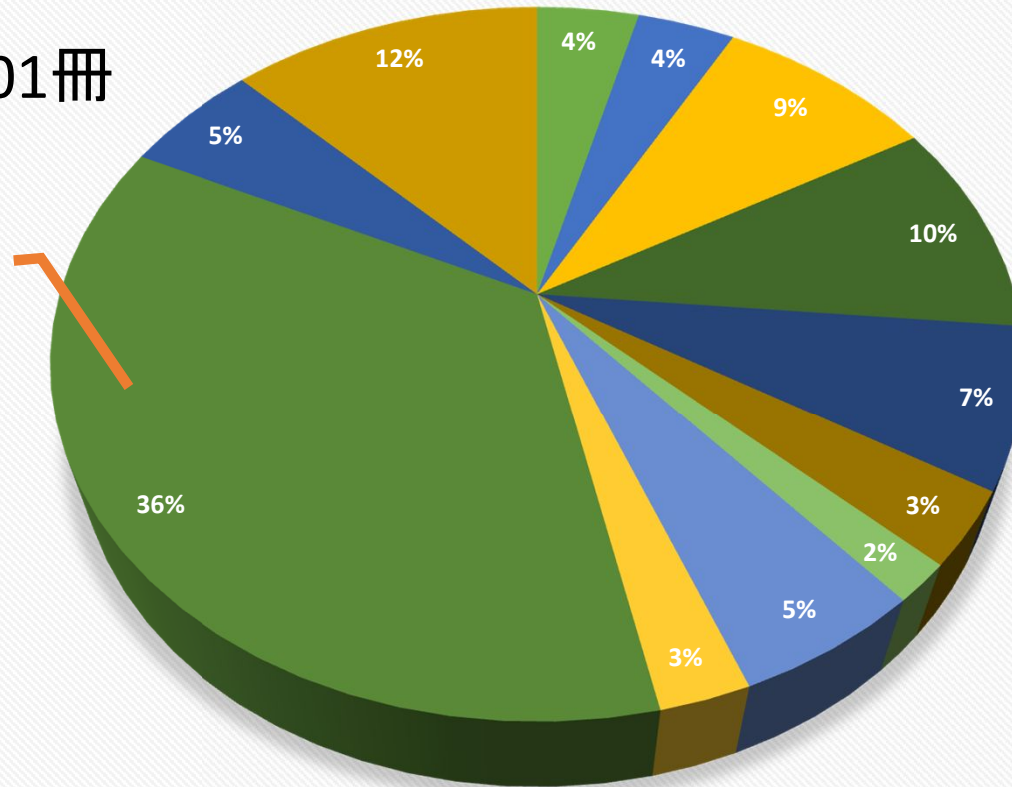
生徒の活躍が掲載された新聞記事を掲示しています。

生徒用ノートPCを使うことができます。(事前に使い方の説明を受けてください。)

現在のコレクション形成

蔵書数 33,401冊

「読書へのアニメーション」
の実施
集団読書テキストを含む



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 絵本 雑誌

規模

- 中学 6 クラス
 - 高校 29クラス
- } 総数
946人

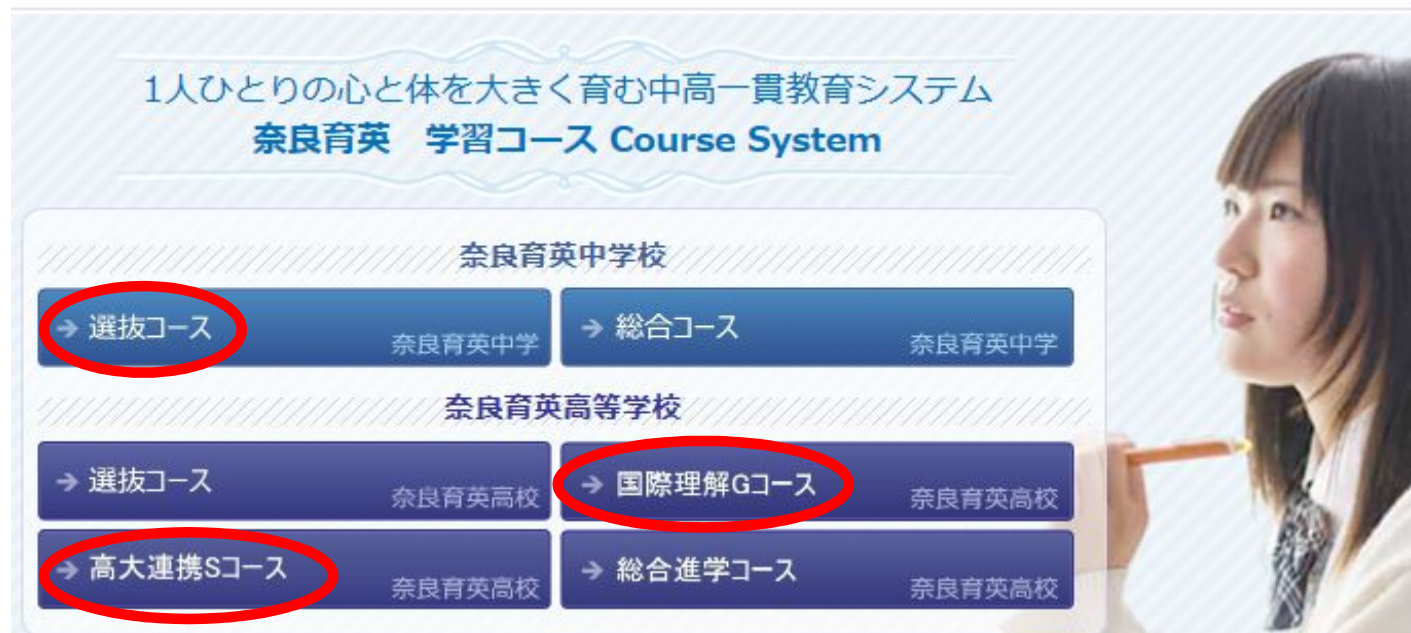
進学実績

県内私大
産近甲龍
関関同立

- 職員 専任司書教諭 1名 学校司書 1名 係教員 3名
- 予算 蔵書 130万円 雑誌60万円(2016年度)
- 蔵書数 33,401冊(2017年7月現在)
- 開館時間 平日8:00~17:00 土曜日8:00~13:00
- 閲覧席 72席 個別学習机 8席
- 授業利用 183時間(2015年度)

本校における「言語技術」の実践～教科編～

- 高大連携Sコース 高3年時 3単位
- 国際理解Gコース 高1年時 2単位 以降 1単位
- 中学選抜コース 中1年～ 1単位



言語技術科(2015年度～)

「読書へのアニメーション」

総合力

国語(物語の構造・分析)

社会(絵・グラフ分析)

倫理・道徳(状況判断・論述)

数学(論証)

理科(分析・パラグラフ)

英語
(パラグラフライティング)

情報(プレゼンテーション)

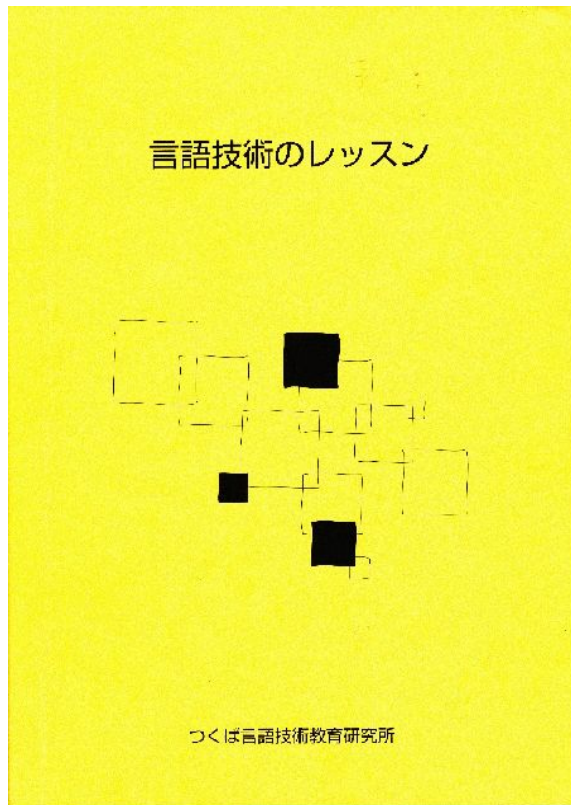
美術(絵の分析)

音楽(楽譜・歌曲の分析)

体育(コーチング)

言語技術

つくば言語技術教育研究所による「言語技術」



三森ゆりか氏が提唱する言語技術教育

- 問答ゲーム
- 物語
- 要約
- 情報伝達
- 認知・視点
- 情報分析
- パラグラフ・ライティング

問答ゲームをやってみましょう♪



・ 問答ゲーム

《ルール=型》

①私は・・・が好き／嫌いです。→主張



②なぜなら・・・だからです。→理由（根拠）

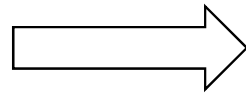


③だから私は・・・が好き／嫌いです。→まとめ

パラグラフの応用

・問答ゲームのパラグラフへの移行

問答ゲーム



英語の話形(パラグラフ)
Paragraph

主語

主張

トピックセンテンス
Topic sentences

私は.....が好きです。

サポーティングセンテンス
Supporting sentences

根拠

なぜかという.....だからです。

まとめ

だから私は.....が好きです。

コンクルーディングセンテンス
Concluding sentences

「読書へのアニマシオン」



スペイン モンセラ・M・サルト氏が提唱する
読書教育の指導書

実践用の複本教材 45タイトルを所蔵

2020年の大学入試問題

石川一郎



たとえば、こんな小論文問題が出る！
800字でこの写真の意味を
説明できますか？

激変する大学入試の傾向と対策と
合格への学び方を
「アクティブ・ラーニング」の
実践者が徹底解説

2020年
大学入試
改革に
備えよう！

講談社現代新書

- 東京大学分科Ⅲ類(外国学校卒業生特別選考小論文問題)2015

→「『多文化共生』は可能か。あなたの考えとどうしてそのように考えるのかを、あなた自身の経験、または具体的な事例をあげながら、述べなさい。」

- 慶應義塾大学経済学部(小論文課題)2015

→「知識は人間だけによって創られていくのであろうか。」

- 早稲田大学政治経済学部(英文出題)2014

→「永遠に生きられれば人は幸せだろうか。」

石川一郎(2016)『2020年の大学入試問題』講談社現代新書

教科を横断する生徒の「主体的な学び」が授業に浸透すると学校図書館はどう変化するか
またその逆は？

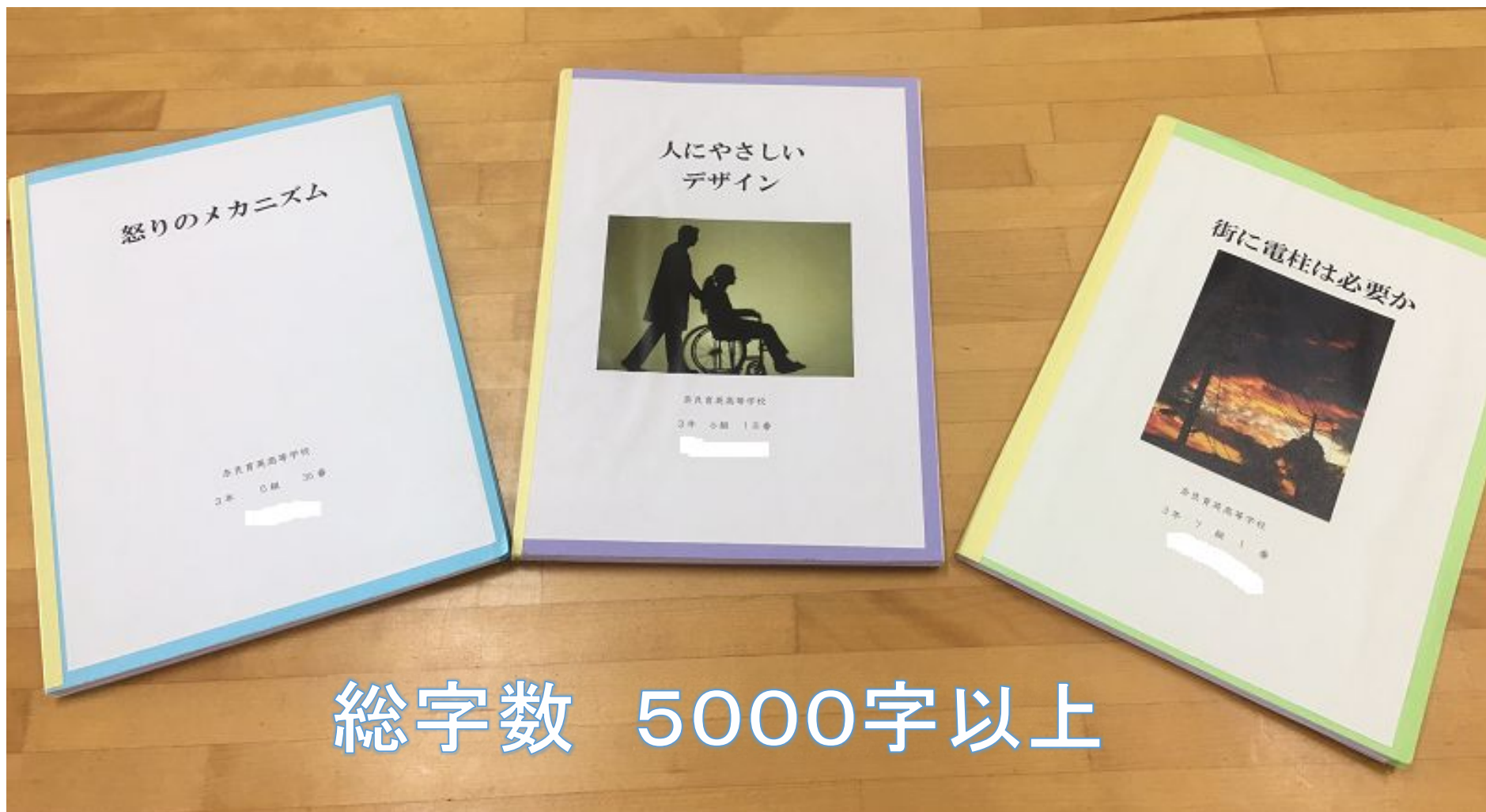
施設・設備・コレクション形成・予算
図書館員の役割 etc...

高3「言語技術」のシラバス

文系 2～3クラス } 100～120人
理系 1クラス }

概要	事柄を批判的に分析・理解し、それらを論理的に伝達する術を習得。プレゼンテーションおよび卒業論文を実施・作成。
テキスト	『言語技術のレッスン』(つくば言語技術教育研究所) 『学生のレポート・論文作成トレーニング』改訂版(実教出版)
授業内容	言語の4機能のスキルを理解し、グループワークで演習。最後にその内容を文章化して表現。
評価方法	毎回の記述課題、発表・発言をルーブリックを提示して総合評価。

卒業論文集の完成をめざす



総字数 5000字以上

ルーブリック(評価基準)

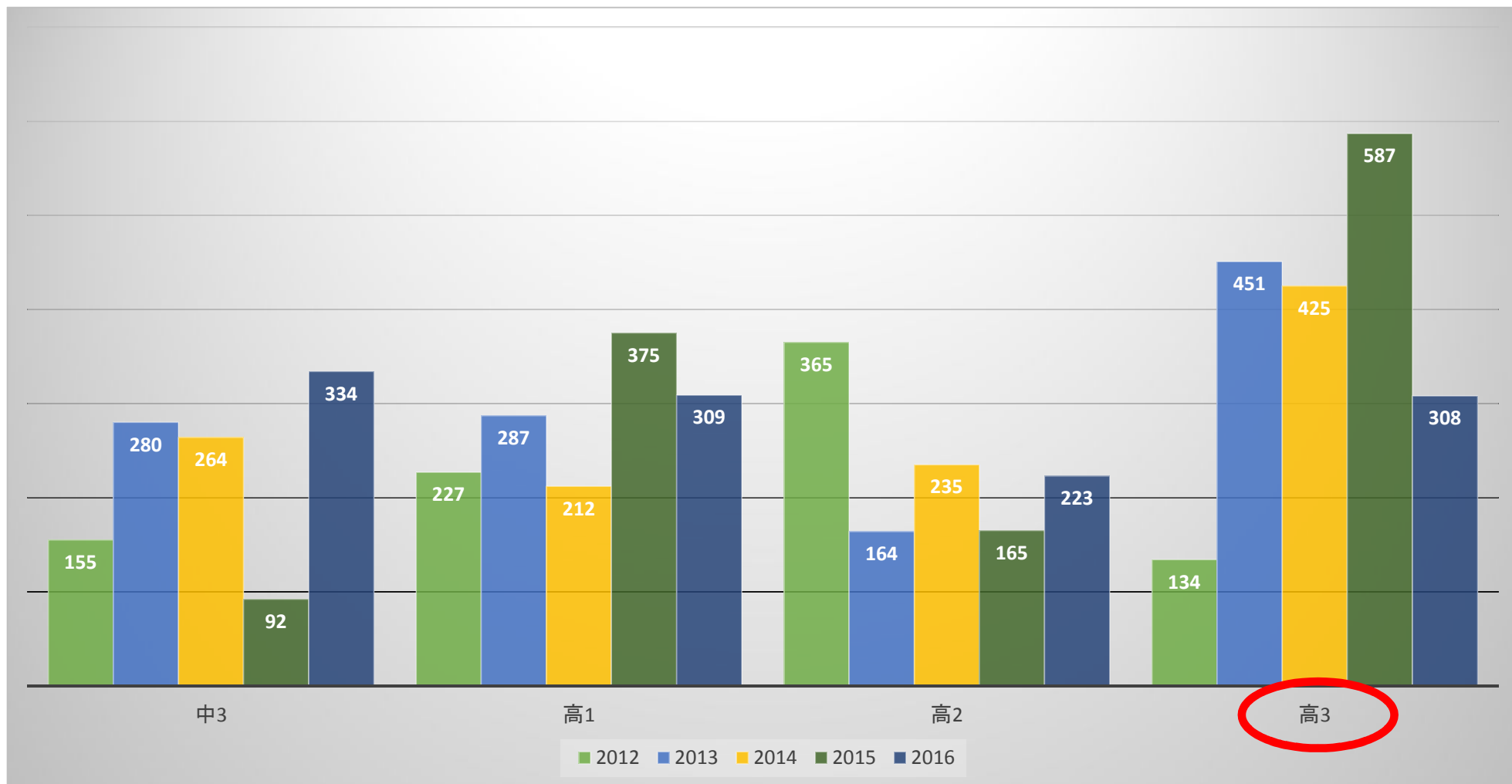
④ ルーブリック(評価基準):論文

	5	4	3	2	1
A. 総字数	5000字に達している。	5000字未満。	4000字未満。	3000字未満。	5000字に達しない。
B. 序論	a～eのすべてを十分に守れている。 a. 論文のタイトルが論題を明示した適切な表現になっている。 b. フックが有効である。 c. 社会的背景情報が的確に述べられている。 d. 個人的背景が的確に述べられている。 e. 論題(自分の主張)が明快に述べられている。	a～eのうち、いずれか1つが十分でない。	a～eのうち、いずれか2つが十分でない。	a～eのうち、いずれか3つが十分でない。	a～eが不十分である。
C. 本論	a～eのすべてを十分に守れている。 a. 論題を支持した内容で、的確な裏立てができている。 b. 結果が明快にまとめられている。 c. 3章まで書けている。 d. パラグラフの構成を理解できている。 e. 自分の主張を支持する内容で、他者の意見を的確に引用している。 f. 根拠としての的確な図表やグラフを用いている。	a～fのうち、いずれか1つが十分でない。	a～fのうち、いずれか2つが十分でない。	a～fのうち、いずれか3つが十分でない。	a～fが不十分である。
D. 結論	a～dのすべてを十分に守れている。 a. 論題の言い換えが適当である。 b. 個人的背景の言い換えが適当である。 c. 社会的背景の言い換えが適当である。 d. フックの言い換えが適当である。	a～dのうち、いずれか1つが十分でない。	a～dのうち、いずれか2つが十分でない。	a～dのうち、いずれか3つが十分でない。	a～dが不十分である。
E. 記述上のルール	a～gのすべてを十分に守れている。 a. 文末統一(常体)。 b. 助詞を正確に使えている。 c. 論文に適した表現方法を使えている(主語、接続詞)。 d. 引用のルールを正しく守れている。 e. 引用の分量が適切である(30%まで)。 f. 誤字・脱字がない。	a～fのうち、いずれか1つが十分でない。	a～fのうち、いずれか2つが十分でない。	a～fのうち、いずれか3つが十分でない。	a～fのうち、いずれも十分でない。

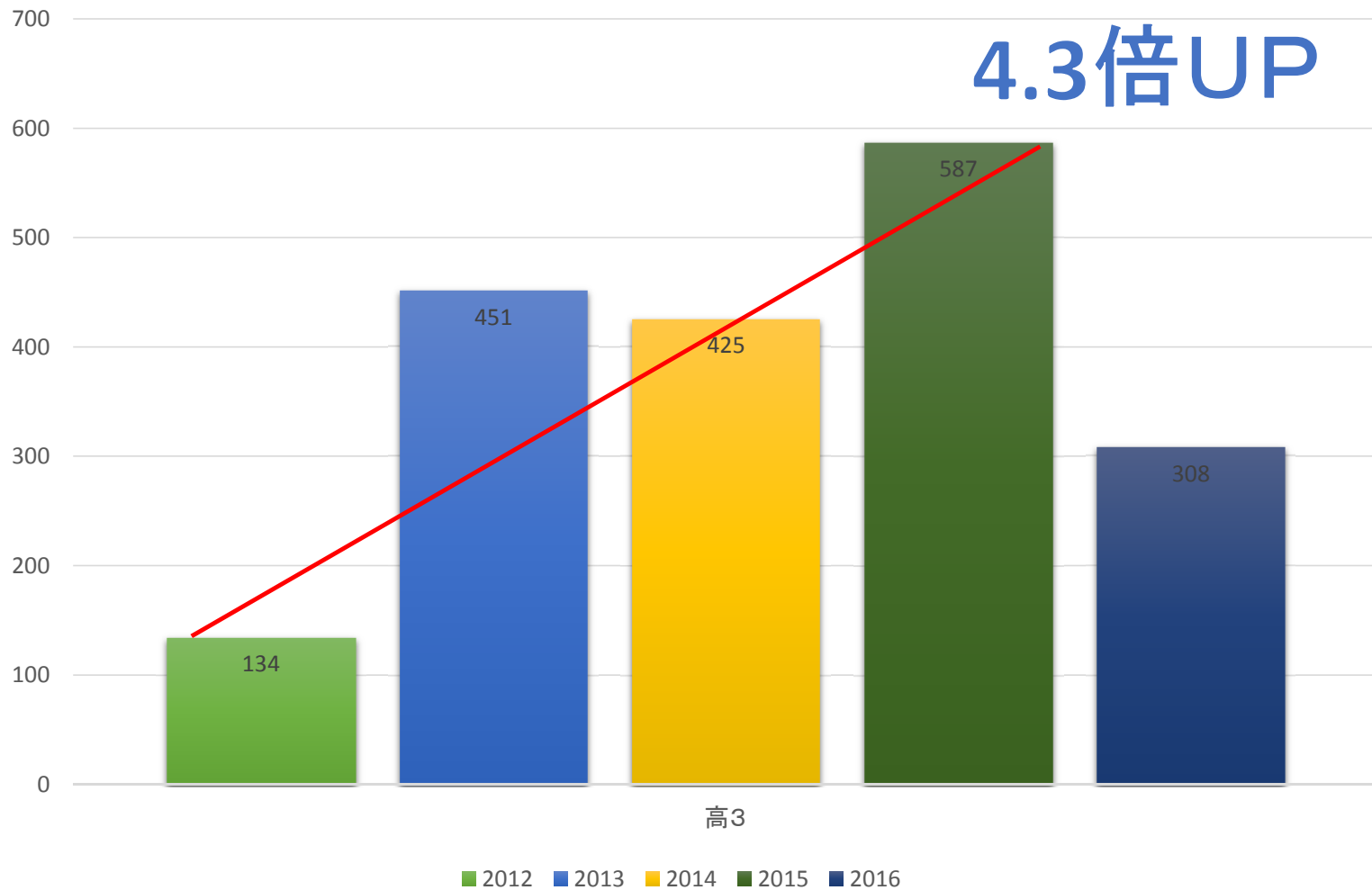
A	5	4	3	2	1
B	5	4	3	2	1
C	5	4	3	2	1
D	5	4	3	2	1
E	5	4	3	2	1
計	/25				

図表グラフ得点

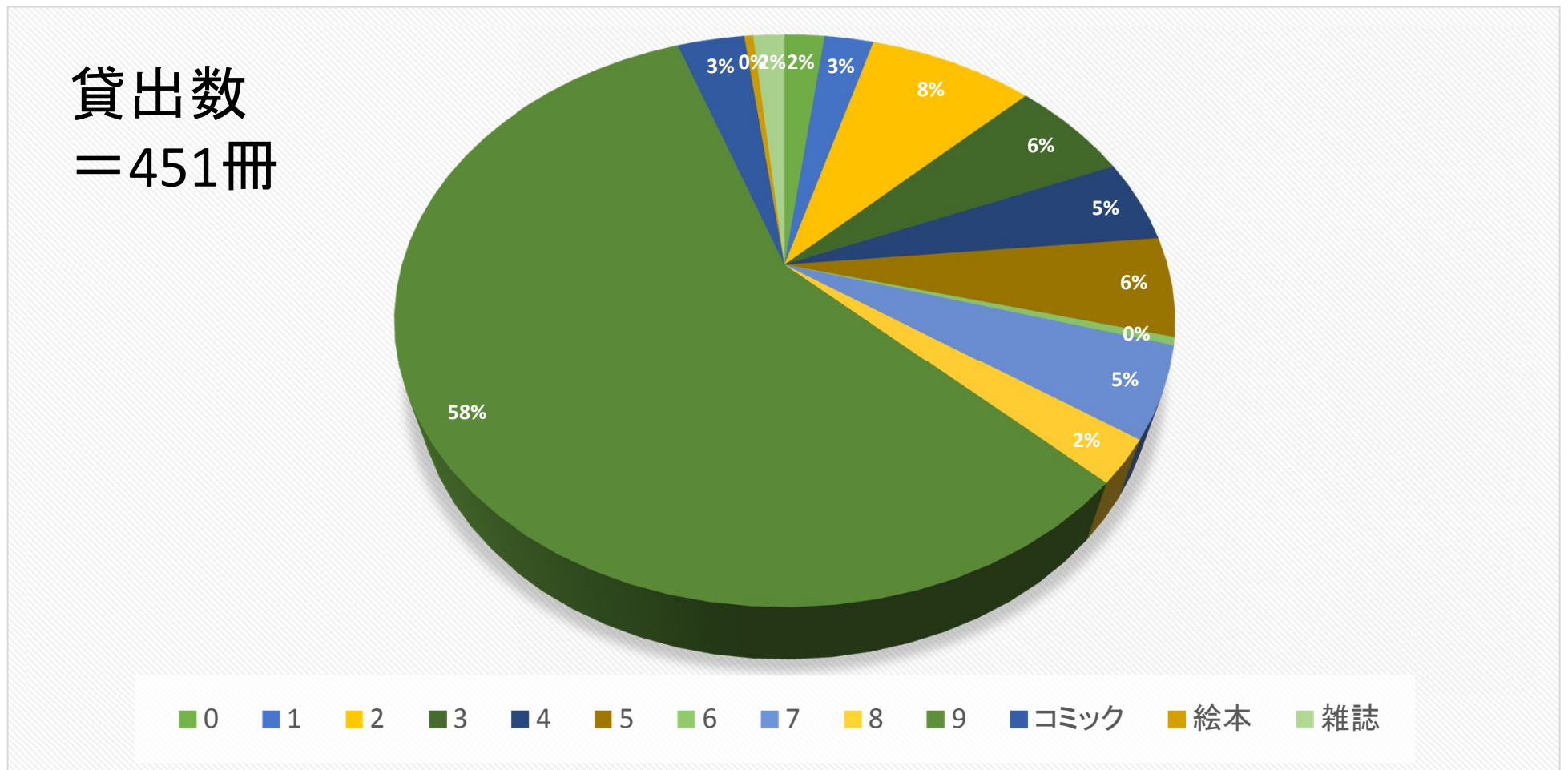
貸出数の変化



高3年 貸出数の変化

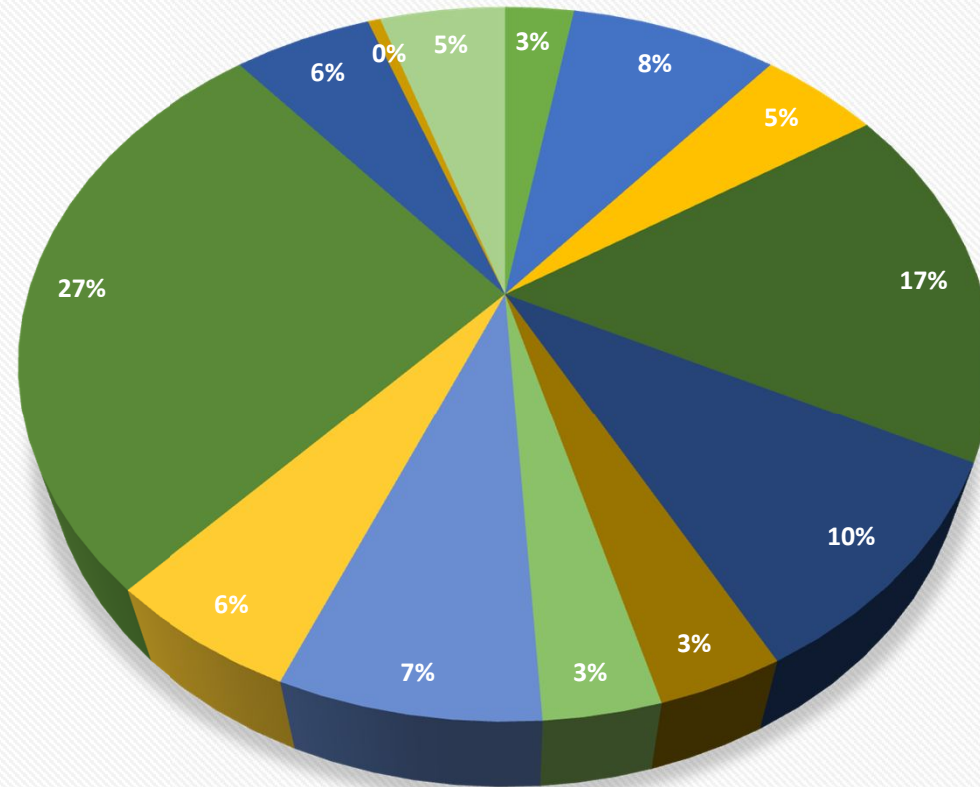


高3年 分類別貸出状況 2013



高3年 分類別貸出状況 2014

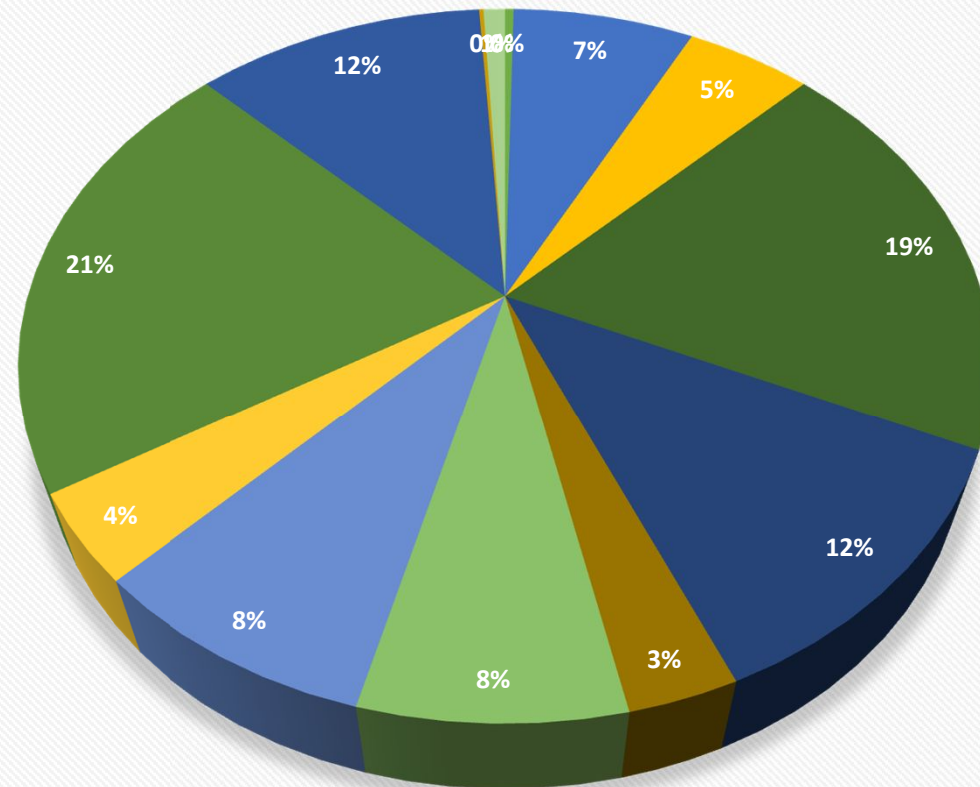
貸出数
=425冊



■ 0 ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ コミック ■ 絵本 ■ 雑誌

高3年 分類別貸出状況 2015

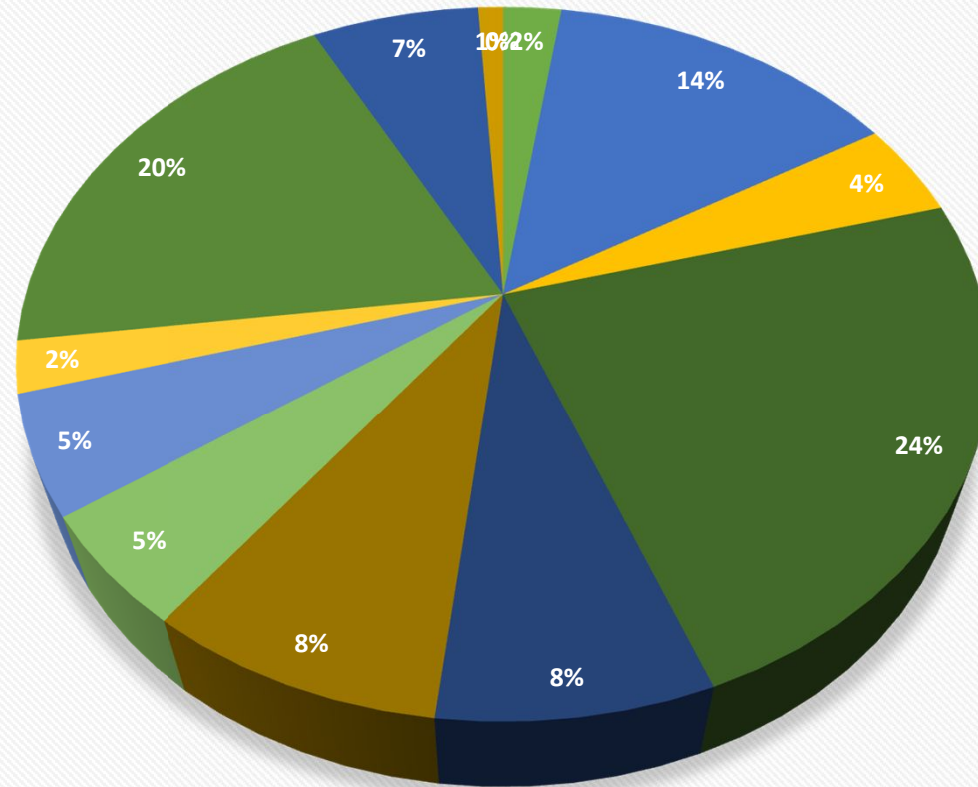
貸出数
=587冊



■ 0 ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ コミック ■ 絵本 ■ 雑誌

高3年 分類別貸出状況 2016

貸出数
= 308冊

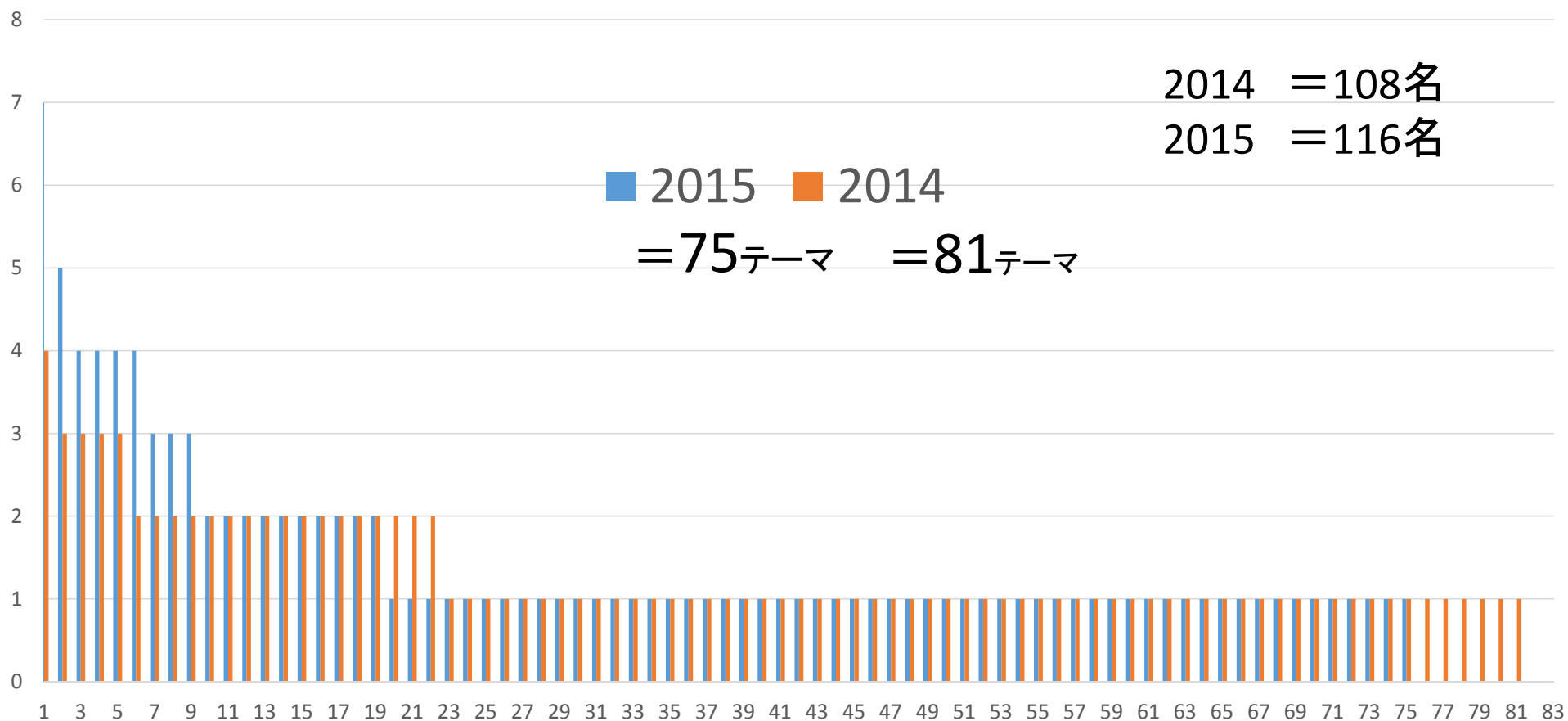


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 コミック 絵本 雑誌

2014年			
テーマパーク	4	メンタル コントロール	2
栄養	3	バドミントン	2
野球	3	幼児教育	2
恐竜・絶滅生物	3	夢	2
宮崎駿・ジブリ	3	怒り・感情	2
睡眠	2	バスケットボール	2
ゲーム	2	テニス	2
自動車	2	幸福	2
サッカー	2	ホスピタリティ	2
宇宙	2	ディズニー	2
戦争	2	美容	2

2015年			
メンタルコント ロール	7	睡眠	2
環境問題	5	家族	2
テーマパーク	4	言葉	2
食・和食	4	美容	2
音楽	4	介護士	2
英語教育	4	貧困問題	2
戦争	3	陸上競技	2
文学	3	健康	2
経済	3		

テーマの順位と全体に占める割合



本校の実践からみえるもの

学校図書館を利用したALを継続的に実施するには

- 司書教諭と学校司書が職務を全うしながら、両輪で運営されること
- 一教科が1年で達成できることは少ない
- 系統立てた指導法の確立（図書館メディアリテラシーを含む）
- レファレンスサービスの拡充
- 他館の協力を得る
- ICT環境が整っているだけではダメ、指導者が熟知していること
- 図書館はいつも満員御礼、スタッフは大忙し・・・
- 教材研究、添削、レファレンス、統計調査、他教科のシラバス熟知・・・

参考文献

- 『学校図書館』 2016年5月号no.787
- 清教学園中高等学校探究科「創立60周年記念事業・教育研究発表会」資料、片岡則夫ほか(2011.10.15)『清教学園トリブリア・カリキュラム』
- 石川一郎(2016)『2020年の大学入試問題』講談社
- 仁上幸治(2014)『図書館員のためのPR実践講座』樹村房
- 全国学校図書館協議会フランス学校図書館研究視察団編(2012)『フランスに見る学校図書館専門職員』
- 全国学校図書館協議会監修(2015)『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携』